

(様式1)

校種	小・中 どちらかに○	学校番号	34	学校名	宇都宮市立豊郷中央小学校
----	---------------	------	----	-----	--------------

平成29年度 学校経営計画

1 教育目標

(1) 基本目標

「人間尊重の精神」を基盤に、激しい変化が予想される21世紀社会の担い手として、「心身共に健康で、主体的に考え表現でき、粘り強く頑張りぬき、自らの向上とよりよい社会の発展を目指し、たくましく生きる人間」の育成を図る。

(2) 具体目標（具体的な児童生徒像など）

『かしこく』 進んで学びよく考える子ども（基礎学力を身につけ、自ら考え進んで学習する。）

『なかよく』 思いやりがあり心豊かな子ども（相手の気持ちを考え、だれとでも仲よくする。）

『たくましく』 元気でがんばる子ども（心身ともに健康で、粘り強く活動する。）

2 学校経営の理念

～子どもの笑顔が輝く学校づくり～

子どもの健やかな成長のためには、学校生活の中で、学習がよく分かる喜び、自分の役割が分かり居場所のある喜び、友達や先生と心が通い合う喜び、を味わわせることが大切であると考えます。

そのためには、教職員一人一人が組織の一員としての自覚をもち、互いを思いやり、居がいのある職場の中で学校目標達成に向けて同僚性を発揮していくことが望まれる。まず大切にしたいのは「分かる喜び」を実感させることができる指導力を身に付けるということである。子どもの学力を育て、心を育てることができる教師でありたい。さらに、保護者や地域への時機を得た発信と共通理解の下での連携を推進し、地域に根ざした教育活動を展開することが大切である。その結果、子ども一人一人の中に自己実現の喜びや自己肯定感などが生まれ、子どもの笑顔が輝く学校となっていくことを目指したい。

3 学校経営の方針

【豊郷地域学校園教育ビジョン】（とよさとの学び）

豊かな郷の生き生きとした子どもたち

〔重点課題〕

- ・分かる授業の実践や学習態度の育成、学習習慣の定着などにより学力向上を図る。
- ・すべての教育活動を通して豊かな心と社会性の育成を図る。
- ・健康や体力への意識を高め、健やかな体の育成と活力ある生活の確立を図る。
- ・家庭・地域との連携・協力を深め、活気あふれる学校づくりに努める

- (1) 「感謝の心」の育成を重点に、全教育活動を通して、豊かな心の教育を推進する。また、豊かな心の育成と関連を図りながら積極的児童指導を推進する。
- (2) 相手を思いやり、相手の考えや意見を尊重して話を聞く態度を育て、学習や生活の場面で、その大切さや意義を実感できるよう指導を重ねることで、児童の学びの充実やコミュニケーション力、想像力（イメージする力）などの育成を図る。
- (3) 本校の研究主題『よりよい社会を目指して、仲間とともに学び合う社会科の授業』に基づく研究

を推進し、授業実践を通して「よりよい社会を目指し、社会の一員として進んで社会に関わろうとする児童」「社会的事象に関心を持ち、主体的に追求しようとする児童」「社会的事象の意味を多面的に捉え、仲間とともに自分の考えを発展させようとする児童」を育成し、子どもが、自信をもって学習に取り組み、学びの喜びや楽しさを実感できるようにする。

- (4) 本校児童のよさ（生活面・学習面）を生かしながら、子どもの自主的・自治的活動を促し、活性化することにより、子どもの創造力・課題解決力などの育成を図り、自らの可能性を発見したり、成長を意識したりしながら、自信をもっていきいきと生活できるようにする。
- (5) 教科体育や食育、保健指導などの充実を図り、児童の健康や体力に対する関心を高め、目標をもって運動に取り組んだり、健康の増進に努めたりする児童を育成する。
- (6) 学校公開や情報発信による「地域の学校づくり」「開かれた学校づくり」を推進したり、家庭や地域と連携を図った取り組みを継続・発展させたりする。また、保護者との信頼関係をより確かなものとするため、連携・協力関係を強化する。
- (7) 地域学校園において、豊郷中学校・豊郷北小学校・海道小学校との連携を深め、小中一貫教育地域学校園を推進する。

4 今年度の重点目標（「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○）

- (1) 学校運営
○子どもの笑顔と活気があり地域に開かれた信頼される学校
- (2) 学習指導
○自分の思いを豊かに表現し、伝え合い、学び合う児童の育成
- (3) 児童生徒指導
○思いやりの心を持ち、ルールやマナーを守って行動する児童の育成
- (4) 健康（保健安全・食育）・体力（元気アップ教育に係る取組を含む）
○運動に親しみながら、楽しく体力の向上を目指す児童の育成

5 学習指導に関する取組

(1) 学習指導上の主な実態

①国・県・市の学力調査などから

全教科、正答率が宇都宮市の平均を上回っている。国語では、第6学年は「話すこと・聞くこと」において高い正答率であり、第5・4学年においては「書くこと」において高い正答率であった。算数では、市の平均値と比較すると数量関係の領域で正答率が高かった。

課題としては、国語では、言語についての知識・理解・技能が挙げられる。また、全国学力・学習状況調査「国語B」においては、「書くこと」に関してわずかに全国平均を上回っているものの、無回答率が低くない状況となっている。

②国・県・市の児童生徒質問紙・学校質問紙などから

学習の理解度に対する肯定的な回答の割合は、学年差があるものの総じて市の平均を上回っている。上学年で肯定的な回答が低かった「勉強が好きか」への肯定的な回答の割合も市の平均値より上回り、学習に対する意欲が高まったことが分かる。

「グループなどでの話し合いへの積極的な参加」については、肯定的な回答の割合が高まったが、「自分の考えを理由を挙げて話すこと」、「様々な視点や立場から物事を考える」といった話し合いに関わる質問において、学年差があるものの市の平均より下回っていることが分かる。

家庭学習については「宿題はきちんとやり提出している」や「自分で計画を立てて取り組んで

いる」という質問に対しての肯定的な回答の割合が学年によって差があるため、今年度の課題である。

③授業等への取組状況から

児童は全般に落ち着いて学習していて、与えられた課題については真面目に取り組むことができる。また、自分の考えをもち友達の考えと比べ、よい所を見つけることができるようになったが、次のような点で課題がみられる。

- ・ 話したいことを相手に的確に伝えること。
- ・ 話合いを通して互いの考えを吟味し、自分の考えを深めること。
- ・ 目的に合わせて「書く」ことに個人差が大きいこと。

(2) 今年度の重点目標

○ 自分の思いを豊かに表現し、伝え合い、学び合う児童の育成

- ・ 目的に合わせて「書く」力を養う。
- ・ 学び合いを通して、自分の考えを広げ深められる活動の充実を図る。

(3) 今年度の取組（「学校教育スタンダード」に関する取組は文頭に☆、授業における取組のうち重点は文頭に○）

① 話をよく聞く子の育成

- ・ 話を聞いたことで、相手を理解できたり、自分の考えが広がったり深まったりした経験をさせ、教師が話を聞くよさを価値づけしていくことで、聞く態度の育成を図る。
- ・ 学習時の姿勢をよくするための合言葉を継続し、聞く態度の育成を図る。

☆ 話の聞き方を中心に、発表の仕方などの基本的な学習スキルを提示し、徹底する。

② 基礎・基本の確かな定着

☆漢字や計算など、繰り返し学習をすることで基礎学力の向上を図る。（家庭学習も含む）

☆標準時数を上回る授業時数を確保する。

- ・ 基礎・基本の習得に課題が見られる学習内容について、個に応じた指導を行う。

③ 自分の考えをよりよいものにする学び合い

- ・ 自分の問題として捉えられる課題や迷ったり悩んだりするような課題、様々な考え方が予想される課題を設定し、学びへの意欲を高められるようにする。

○ 話合いを通して互いの考えを吟味し、自分の考えを広げ深められるようにする。

☆ 明確な発問、丁寧な机間指導による「分かる授業」を実施する。

☆ 全国学力・学習状況調査、とちぎっ子学習状況調査、学習内容定着度調査、学習と生活についてのアンケートを公表する。

○ 一人一人の表現力を高める指導と場の充実を図る。

- ・ 基礎・基本が十分身につけている児童に発展的な課題を持たせ、さらに力を伸ばすための教材の開発や展開の工夫を図る。

④ 目的に合わせて「書く」力を養う。

○ 朝の学習等で定期的に「ミニ作文」を行い、書く習慣をつける。

- ・ 国語科を中心に発達段階に応じた「書く」力を付けさせる指導の充実を図る。

○「書く」と「話す」を関連させた学習活動を展開することで自分の考えを明確にできるようにする。

⑤ 読書活動の充実

☆ 全校生による朝の読書を実施する。

- ・ 学習情報センターとしての学校図書館の利用を推進する。
- ・ 各教科・領域及び総合的な学習の時間における学校図書館司書との連携を図る。
- ・ 様々な形での「読み聞かせ」や「ブックトーク」,「多読者表彰」等, 読書意欲を喚起するための取り組みを行う。

⑥ 家庭・地域との連携・協力

☆ 学校の積極的な公開や学校の情報の計画的・継続的な発信・提供を行う。

☆ 学習用具, 家庭学習の習慣化, テレビやゲームの時間について, 学年便り等(家庭訪問, 学年・学級懇談会, 個人懇談)で通知し, 学校と保護者の共通理解のもと指導を行う。

☆ 今日的な課題に適切に対応できる能力(情報教育, 環境教育)の育成を図る。

6 児童生徒指導に関する取組

(1) 児童生徒指導上の主な実態

① 問題行動等調査から

- ・ 児童の学校生活の中で遊び的な「冷やかし」や「からかい」からけんかやいじめなどに発展した事例があった。また, 仲間はずれされていると本人から訴えがあった。担任の早期対応・指導により「深刻ないじめ」に発展した事例はなくすべて解決している。
- ・ 長欠児童が1名, 保健室登校児童が2名いる。
- ・ ネットトラブルなし。

② 国・県・市の児童生徒質問紙・学校質問紙などから

- ・ 学校のきまりを守って生活しようという意識はある。しかし, 廊下を走ってしまったり, 時間が守れなかったりする児童の姿が見られる。規範意識が十分定着しているとはいえない。
- ・ 大多数の児童が学校に来るのが楽しいと答えており, 明るくのびのびとした学校生活を送っている。学年・学級を問わず, 楽しく共遊している。

③ 学校生活の状況から

- ・ 「あいさつ運動」などで, 呼びかけに対するあいさつは元気にできる。委員会や各クラスによる昇降口での朝のあいさつ運動も実施している。しかし, 場に応じた言葉遣いが上手にできなかったり, 友人に対して思いやりに欠ける言葉を発したりする児童も見られる。自分ではあいさつをしていると感じているが, 相手によく届く大きな声になるにはもう少し努力を要する。
- ・ 縦割り班活動など興味・関心があることに関しては意欲的であるが, 清掃など勤労奉仕的活動に対しては消極的な児童も見られる。

(2) 今年度の重点目標

- ・ 思いやりの心を持ち, ルールやマナーを守って行動する児童の育成
～規範意識を高め, 自他を大切にしながら望ましい人間関係をつくれる児童の育成を目指して～

(3) 今年度の取組(「学校教育スタンダード」に関する取組は文頭に☆)

① 基本的生活習慣の育成

○☆ 多様な「あいさつ運動」を定期的に行い(委員会活動や各クラス), 全教員で「校内あいさつ強化当番活動」を実施(学期に3回ずつ), 「みんなのやくそく」の項目を生活目標に反映さ

せて指導する。

- ☆ 朝の会や帰りの会を利用して「みんなのやくそく」の指導を継続していき、規範意識を高める。
- ② 望ましい集団づくり
 - ☆ Q-U調査の結果を生かした学級経営
- ☆ 道徳の時間や学級活動などでいじめや生命尊重を題材とした授業を実施
 - ☆ 人権週間や読書タイムの充実
- ③ 個に応じた指導の充実
 - ☆ 職員会議で児童指導について情報交換し、早期の対応・解決と共通理解を図る。
 - ☆ 教育相談週間の実施（6月，12月）
 - ☆ 日々の様子，学年会での共通理解など，積極的に問題行動の児童理解に努める。

7 健康（体力・保健・食・安全）に関する取組

（1）健康（体力・保健・食・安全）に関する主な実態

- ①定期健康診断・元気っ子健康体力チェックから
 - ・ 定期健康診断の結果から見ると，う歯の罹患率が低く，治療率が高い。高学年になるにつれて視力の低下傾向にある児童がととも多い。身体計測結果から全国平均と比較すると，特に4年生男子と5年生女子が身長・体重共に低く，他学年も小柄な傾向である。
 - ・ スポーツ振興センター災害給付対象児童が少なく，日常の保健室での処置は軽度な擦過傷が多い。
 - ・ 平成28年度の元気っ子健康体力チェックの結果を見ると，全体的に，上肢筋力（握力）が優れている傾向にある。一方，敏捷性（反復横跳び）が劣っている傾向にある。そこで，「走・投・跳」の基礎体力，中でも敏捷性や筋力・瞬発力を高める運動を多く取り入れていく必要があると思われる。
- ②元気っ子健康体力チェックのアンケート及び国・県・市の児童生徒質問紙・学校質問紙などから
 - ・ 運動やスポーツが好きな児童は平均で90%近くいる。運動・スポーツの実施時間についての質問では，全体的に30分から1時間行っていると答えた児童がほとんどであった。
 - ・ 食事は，80%近くの児童が規則正しく毎日食べていると答えている。
 - ・ 給食は，80%以上の児童が好き嫌いをしないで食べていると答えている。
 - ・ 睡眠時間は平均で8時間以上と答えた児童が多いが，就寝時刻は高学年になるにつれて遅くなり，22時から23時と答えた児童が40～50%いる。
- ④ 業や健康安全・体育的行事等への取組状況から
 - ・ 初夏に行われる運動会には，全学年に表現種目があり，児童は熱心に練習に取り組んでいる
 - ・ 縄跳びや持久走の練習の時期になると，休み時間に進んで練習している児童が多く見られる
 - ・ ボール運動や一輪車が好きな児童が多い。その反面，ルールを守れない児童も見られる。安全面に気を付けて行動できるように指導していく必要がある。

（2）今年度の重点目標

- ・ 運動に親しみながら，楽しく体力の向上を目指す児童の育成

（3）今年度の取組（「学校教育スタンダード」に関する取組は文頭に☆）

①望ましい食生活の育成

- ☆ 学校給食における地産・地消推進事業（通年）

☆ 「とよおう水田」を利用した米作りと「なかよし農園」を利用した野菜作りを活用した特色のある給食

☆ 地域学校園の栄養士との連携による食育の推進とお弁当の日の実施（12月に2回実施予定）

②健康・体力の向上

☆ ミニマムの達成率の向上、季節ごとの重点運動の設定と実施

- ・教科体育の時間内に短時間でできる、瞬発力や柔軟性を高める運動の導入
- ・元気っ子健康体力チェック・各種検定の実施と保護者への結果報告
- ・地域学校園の体力増強部会の方針を踏まえての補強運動（鉄棒・投力・走力の強化）
- ・水泳検定カードの活用による泳力の強化

③家庭・地域との連携協力

☆ 保健だよりの発行(通年)と学校保健給食委員会の実施（11月）

☆ 地域ボランティアへの児童の登下校中や放課後の安全確保の呼びかけ(通年)

8 特色ある学校づくり等に関する取組

(1) 育てたい資質・能力

テーマ「ぼくたち・私たちが学校・学級をつくる」

○児童会や委員会活動、学級の係活動などの場で、児童の自主性や創造性、協働性を育む。

テーマ「地域から学ぶ学校」ー地域の人材や素材の活用を通してー

○地域の人材や素材の活用を通して、学校や地域を愛し、人を思いやる心豊かな児童を育む。

(2) 具体的取組（提案型予算「頑張る学校プロジェクト」に関する取組には文頭に◇）

◇児童が自らの夢や思いを実現するための活動の場や支援体制の充実

◇児童の活動の成果や地道な努力を認め励ます教育の充実

○地域と関連する活動の実践と年間指導計画への位置づけ、推進のための体制づくり

◇学校・家庭・地域・各関係諸機関との連携を図った活動の充実

9 本市の重点施策・事業との関連

(1) 地域とともにある学校づくり（「魅力ある学校づくり地域協議会との連携・協働を含む」）

①基本的考え

魅力ある学校づくり地域協議会の意見を参考にし、地域コーディネーターを中心に地域内の教育資源を教育活動に活用する。

②主な取り組み

○地域コーディネーターによる地域内の関係施設、団体との連携強化を図り、地域の教育資源の活用が円滑に図られるような体制整備を推進する。

○学校ホームページや学校だより等の情報発信媒体に、児童の活動の様子とともに教員の資質向上のための研修や積極的児童指導の具体例などを掲載するなどして、地域への情報発信を強化する。

(2) 小中一貫教育・地域学校園

①基本的考え

「豊郷地域学校園教育ビジョン」を基本とし、より焦点化を図った取り組みを推進する。

②主な取組

○感謝の心の育成を重点に、全教育活動を通して、豊かな心の教育の推進に努める。

- 地域の関係諸機関との連携を図り、児童が働くことの尊さを実感したり、将来への夢や希望をもって生活したりできるよう支援に努める。
- 小・中学校教員の相互理解を深め、それぞれのよさを取り入れた授業実践ができるよう、乗り入れ授業の効果的活用を図る。